

## ごあいさつ

2006年も「インドネシアジャワ島中部地震」などが発生し、近年、引き続き発生している世界各地での地震災害は後を絶ちません。日本においては、この一年大きな地震災害はなかったものの、首都圏直下地震や東海・東南海・南海地震など非常に大きな被害が想定される地震の発生が懸念される状況には変わりありません。また、ここ数年、「平成18年7月豪雨」による長野県、鹿児島県を中心とした災害など、世界各地で地球温暖化の影響を要因とするような異常気象による風水害や干ばつなどの被害が増加しています。このように、自然災害への備えは、従来の防災の観点だけでなく、地球環境問題までも含めた観点からの取り組みがますます必要となってきました。一方、日本においては、社会構造が、成長・消費型の社会から循環・蓄積型の社会へ転換しつつも、建設投資は次第に減少しており、新規の社会資本整備が抑制される中で、これまでに蓄積してきた社会資本を有効に活用してゆくことが重要なテーマとなってきました。

飛島建設では、「防災のトビシマ」、「建ててから始まる真のお付き合い」をスローガンとして、防災に関わる技術、環境に関わる技術、持続可能な社会基盤を維持していく技術などあらゆる面から、安全・安心な社会を築き、堅持していくことに貢献すべく研究や技術開発に、全社を挙げて取り組んでおります。「とびしま技報」で、それら成果の一部をご報告して参りたいと存じます。

また、「とびしま技報」では、1973年1月の創刊以来、施工の最前線におけるさまざまな課題を解決してきた土木・建築の施工技術に関わる成果についても、積極的に紹介して参りました。これらの成果が、土木・建築にとどまらず、より広い分野で少しでもお役に立てれば幸いと考えております。

「とびしま技報55号」では、22編の当社の最近の技術に関わる成果を取りまとめ掲載いたしました。皆様におかれましては、本報をご高覧いただき、ご意見、ご助言を賜りますとともに、ご活用下さいますようお願い申し上げます。

今後とも、これまでも増してご指導、ご鞭撻をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2006年12月  
技術研究所長  
三輪 滋